

キリスト教何でもQ&A

百瀬文晃 (カトリック・イエズス会司祭) ・お相手 吉崎恵子 (1995年4月～9月放送)

●キリスト教信仰について

01. その1 教会と聞くと、真面目で熱心な人たちが行く所のような気がしてつい足が鈍ります。意志の弱い怠け者はクリスチャンになれないのでしょうか？
02. その2 神を信じることは必要なのでしょうか？神を信じてなくても支障なく生きていけると思うのですが。
03. その3 どうして神が本当に存在すると言えるのですか？
04. その4 かなりキリスト教の勉強をしたのですが、もう一つ腑に落ちません。素直に信じている人を見て羨ましくなります。私は生まれつき不信仰者なのでしょうか？
05. その5 イエス・キリストの教えには心ひかれるのですが、洗礼を受けるところまで踏み切ることができません。洗礼は救いのために必要なのでしょうか。家庭に不和を起こしても洗礼を受けるべきでしょうか？

●罪のゆるしについて

06. その1 人が過去に罪を犯したとしたら、どのようにすればゆるされるのでしょうか？どのような償いの方法があるのでしょうか？
07. その2 ある人がゆるせません。キリスト教では人をゆるさないと自分も神にゆるして頂けないと教えていますが、私のような者には救いはないのでしょうか？
08. その3 過去に犯した罪のことを思うと今も心が暗くなり、自分の醜さを考えるたびに自己嫌悪に陥ります。私のような者にも赦しは与えられるのでしょうか？

●キリストの十字架と復活について

09. その1 キリストの死はどのようにして人間の罪のゆるしとなるのですか？人類の「贖い」のためだったとも聞きますが、何のことかよくわかりません。
10. その2 キリスト教ではキリストが復活したと言われますが、一度死んだ人が生き返ったなどと本気で信じているのでしょうか？

●三位一体について

11. イエスが説いた神を信じるというなら理解できるのですが、キリスト教ではそれだけではなく、イエス自身を神として拝むのですか？キリスト教で言われる「三位一体」ということがわかりません。

●祈りについて

12. その1 どう祈ったらよいかわかりません。
13. その2 しばしばキリスト者は、「神の呼びかけ」とか「みむね」とかを口にします。私たちは神が望んでおられることを知ることができるのですか？もし本当なら、どのようにすれば知ることができるのですか？

●死と永遠のいのちについて

14. その1 死者のためにどのように供養をしてあげることができるのでしょうか？
15. その2 この世のはかなさをつくづく感じます。あまり難しいことを考えずに、自分に与えられた境遇を甘んじて受け止め、こだわりなく、虚心坦懐に生きていけばよいのではないのでしょうか。あえて「永遠のいのち」などを信じないでも、この世で精一杯に生きればよいのではないのでしょうか？
16. その3 働き盛りの夫が突然他界しました。仕事半ばにして死んでいった人にとって、その死は何だったと考えたらよいのでしょうか？聖書には「死は罪の結果」とあります。夫は罪のために死んだのでしょうか？

●世の中の苦しみについて

17. その1 不幸が続いて打ちのめされています。私は神様から見捨てられているのでしょうか？
18. その2 神が真に優しい方なら、なぜこの世の中には苦しみがあるのですか？

●教会の歴史と組織の中で

19. その1 カトリックとプロテスタントとはどう違うのですか？
20. その2 イエスの教えには賛同しますが、教会には違和感を感じます。イエスの弟子となっても教会の一員にはならないという生き方がゆるされますか？
21. その3 しばらく教会に通っていましたが、人間関係のわずらわしさに足が遠のいています。神様の愛をよく知っているはずのクリスチャンが、なぜかげで人のことをとやかく言うのでしょうか？
22. その4 新しく赴任してこられた主任司祭に、どうしてもついていけません。教会を移ってもよいのでしょうか？

●修道生活について

23. カトリック教会にも、フランシスコ会とかドミニコ会とか、さまざまな派があると聞いています。どう違うのですか？

●聖母マリアについて

24. カトリックではキリストよりもマリアを拝むのですか？

問は、百瀬文晃著「キリスト教に問う—65のQ&A」(女子パウロ会発行)より引用させて頂きました。